

暁の渚離りて

(昭和二十二年寮歌)

篠原昭壽君 作歌
竹内五男君 作曲

一
暁の渚離りて

あかつき なぎさづか
ふるきもの 光なきもの
底ひなき海に抛れば
いささけき水輪が呼ばふ
想ひ出の古りし仕草に
告ぐるなりいたき別れを

二
永遠に絶ゆることなく
ひたひたと寄する波間に
万象のよみがへりしを
はぐくみしなさけ忘れず
真実の旗幟を取り持ち
いゆくものひたあゆむもの

三
さあれ吾が幸は希望は
ふたたび会ふ事なしと
燃ゆる火の炎立ちに消えぬ
あるはただ宿命のみなる
さだめ故旅を行くなり
いたましきいのちと云はめ

四
小船もて浜伝ひ行き
火の神の荒ぶる山を
怖れみてかへりみすれば
たちまちに幻惑は裂け
くれなるの血潮流れて
天地は夕焼けにけり

五
涯知らぬ海さまよひて
い着きしは辛夷咲く丘
友垣とあつく結びて
いたましき宿命とかむと
ひたぎまに立ちあへぐ夜半
静かなり星は降りつつ

六
溢れ出る涙留めて
丘高く秀づる草の
友よ見よ紅に映ゆるを
歓喜に充てるそよぎを
春秋は移りて行けど
睦びつつ耐へてを行かな